

令和5年度（2023年度）教育警察常任委員会管外視察の概要

- 1 視察日 令和5年（2023年）11月7日（火）～9日（木）
- 2 視察者 教育警察常任委員会（6名）
末松直洋（委員長）、松田三郎、城戸淳、本田雄三、
亀田英雄、齋藤陽子

3 視察の概要

（1）札幌市立星友館中学校

札幌市立星友館中学校は、本県に先駆けて北海道初の公立夜間中学として令和4年4月に開校した。

幅広い年代の生徒が在籍し、生徒の理解度に合わせてコース別授業の実施など、一人一人の生徒に合った学びに取り組んでいる。また、本県が令和4年度に開催した「夜間中学シンポジウムin熊本」



において、同校の工藤校長にパネリストとして登壇いただくなど、“生徒の学びたい気持ち”に応えるような先進的な取組を実施している。

今回の視察では、夜間中学の開校に向けた取組や開校後の学校運営における課題等について説明を受け、学習サポーターを活用した実際の授業の様子を見学した。

星友館中学校から、「学ぶ＝いきる」という学校教育目標の下、様々な年代、国籍の生徒の多様性を尊重する学校を目指しており、生徒数も年々増加してきている。今後は、不登校で十分に学べなかった生徒の受け皿となるなど、新たな役割が出てくることも期待されているとの説明があった。

（2）札幌運転免許試験場

優良運転者の利便性の向上等を図るため、運転免許更新時講習のオンラインでの受講を可能とする「優良運転者オンライン更新時講習モデル事業」が、令和5年4月から、北海道・千葉県・京都府・山口県の4道府県において実施されている。

オンライン講習は、マイナンバーカードを活用し、これまでの運転免許更新施設での約30分の講習に代わり、スマートフォンやパソコン等から専

用サイトにアクセスして講習動画を視聴することにより受講が可能となるものであり、令和6年度末以降、本県を含む全国で実施予定である。

今回の視察では、オンライン講習の流れやモデル事業実施の状況、運用上の課題等について説明を受けた。

札幌運転免許試験場から、モデル事業を実施する中で、オンライン講習受講者からは「利便性が向上した」等の良い意見がある一方、通信状況不良等の課題も出てきている。今後全国展開するに当たっては、マイナンバーカードの普及率の向上も必要になるとの説明があった。



(3) 新千歳空港

新千歳空港では、現在、テロやハイジャック防止のほか、不特定多数の人が集まるいわゆるソフトターゲット対策として、北海道警による警戒警備が行われている。

一方、阿蘇くまもと空港は、今年3月に新ターミナルビルがオープンしたほか、TSMCの県内進出を契機として、旅客と貨物の両面での「国際空港化」を進めており、今後の空港利用者数の増加に向けて、空港警備のさらなる強化が課題となっている。

今回の視察では、新千歳空港における警戒警備状況等について説明を受けた。

北海道警察から、大規模空港における警戒警備においては、警察単独での警護は不可能であるため、空港ビルの運営会社や自衛隊など関係機関との連携が重要になるとの説明があった。



(4) こども本の森遠野

遠野市においては、令和元年度からこども本の森構想推進事業に着手し、世界的な建築家・安藤忠雄氏の設計・寄贈により、令和3年7月に「こども本の森 遠野」がオープンした。

同施設は、敷地内の土蔵や庭を生かし、子育て支援や多世代交流の場としてイベントスペースも併設されており、施設のオープンと同時に「こども本の森遠野を育てる会」が発足し、運営に係るアイデアの提案やイベントの協力など、地域が一体となった施設の運営が行われている。



今回の視察では、本県に先駆けてこども図書館を開館した同施設の設備を見学するとともに、集客に向けた取組や市直営による運営上の気づき等について説明を受けた。

こども本の森遠野から、構想段階から市民が積極的に参加していることが大きな特徴であり、本の貸出しはないが、その分多くの方が集まる地域のコミュニティスペースとしても活用されている。また、本の配置に加え、備品の種類や照明の当て方等も指定されており、それらを全て含めて“安藤忠雄氏の作品”と位置付けられているとの説明があった。